



シリーズ 子どもたちの発達

『道具』

子どもは生まれてから様々な刺激を受けて、身体も心も成長していきます。そのことが“遊び”という行為を通じた日常生活の中でなされている、ということは前回お話ししました。そして、子どもの遊びとはきっても切れないのが『道具』であるといえます。『道具』というと、知育教材や遊具を考え、買い与えがちではないでしょうか？でも、子どもの生活を振り返ってみて下さい。子どもはどんなことを好み、楽しみ、何を使って遊んでいるのでしょうか。

子どもがより良く育っていく、その刺激としての『道具』について今回は皆さんと考えて行きたいと思います。

子どもは感覚すること、運動することを通して世界を認識していきます。そして、そういう経験を通して子どもなりに学び、記憶となって生きていくと考えます。赤ちゃんの最初の行為は何か手に物を持つと、それをすぐに口に持って行って、なめることから始まります。はじめは物を掴んだり放したりすることだけで、手の中でいじりまわすほどには運動機能も感覚も発達していませんが、何かを「知りたい！」と思うと、口に物を持っていきます。（これは赤ちゃんの飲んだり食べたりする行為に結びついて、一番早く発達する感覚器官だからです。）物をいじり調べるといことを、こんな小さな時期からはじめています。

手足の運動機能の発達に伴って、何でも握りこんでいた状況から指先だけで物を持ったり、つかむことができるようになる頃には耳や目の感覚器官と共に、触覚も発達していきます。同じ頃には、おすわりも出来るようになってくることから、様々なものをいじって遊ぶようになります。

いじることは手先だけでなく視覚を発達させたり、物の性質——大きさ、面、幅、形、軟らかいもの、硬いもの、などなど——を知ることが出来ます。また、物と物との間に関係がある

こと、役割、機能があることも経験していきます。例えば、容器の中にお手玉を入れていくと、それはある時いっぱいになる——“量”として経験されるわけです。子どもは物と物との関係を言葉で言うことは出来ないけれども、発見することは出来るのだと思います。言葉が出てきた時期に、思考がはじめて言葉と結びついていくけれども、思考そのものは、行為から出発しているのです。いじり遊びや探索遊びの中に子どもの「なぜ？」があるのだとしたら、子どもが自ら考え、五感を使って発達していこうとすることを伸ばしていくのは、それに関わる道具ではないでしょうか？！

また、道具を通して、大人が考えつかないようなことをしている姿があります。それは創造性という、その子の可能性を広げている姿でもあると思います。創造性はその子自身の発見やひらめきであることが多いので、大人が助けたり、教えたりすることは難しく、道具はそのことを助けていく良い刺激となるのです。そして、子どもなりの発見やひらめきの積み重ねが創造性を育み、個性やオリジナリティーになっていきます。

では、よりかしく成長していくために、どんな道具が良いのでしょうか。子どもがたくさん運動すること、行為することの可能性を与えるもの、機能のあるもの…それらは特別な何かだけではなく、日常生活の中にもあります。例えば“布”です。軽く、持ちやすい、感触もあります。「イナイ イナイ パー」をしたり、身体に巻きつけてみたり、少し大きくなるとお弁当を包んだり、雑巾のようにして掃除したりと見立てるようになります。赤ちゃんの時期から幼児期まで幅広く使われ、そしてあらゆる機能を持っています。布一枚を通して、子どもが遊びを創造していくのです。

何のへんてつもない空きビンも、そこに物を入れたり出したりしながら、たくさんになることや、物によっては上手く入らなかったり、ビンのふたの開け閉めもまた手首を使ったりと、とても子どもにとっては楽しいものです。このように日常の中にも子どもが頭も身体も使って遊べるものはあります。時には特別なものをと考え、子どもに提供することも新しい経験ですが、周囲を見回してみてください。何か、子どもが楽しめるものがあるのでは？！と。

そうした日常的なものを含め、子どもの機能や思考を発達させる道具を保育者としての視点から、環境のひとつとして整える努力をしています。ぬくもりの感じられる木のおもちゃ、人形類、本、台所コーナーのものたち、などなど。ご家庭だけでは提供しきれないものもあると思います。興味をもたれた方は一度保育ルームを覗いてみて下さい。手作りおもちゃは展示・販売もしています。

次回は少し視点を変えて『衛生』について一緒に考えてみたいと思います。

柏市駅前認証保育園 Kid's Encourage
園長 日下部樹江

